

わが町のあの日を振り返る  
**OKINAWA  
 BACK  
 TO THE 19XX**  
 沖縄バック・トゥ・ザ・19XX

「花笠空港」の名で親しまれた  
 宮古空港旧ターミナルビル

沖縄本島と台湾の中間あたりに位置する宮古島市は、宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島の6つの島々で構成されています。

宮古島市の空の玄関口、宮古空港は1943年、旧日本軍により海軍飛行場として建設されました。1956年に那覇―宮古―石垣を結ぶ民間航空の定期路線が就航し、1968年には初代ターミナルビルが完成。その後、利用客増加に伴い滑走路は延伸され、旅客ターミナルビルも一新されました。花笠をモチーフにした通称「花笠空港」は、島民が待ち合わせ場所として利用したり、館内のレストランで食事をするなど、地域の憩いの場としても親しまれていました。

1997年には現在のターミナルビルが供用を開始。県内外の多くの人々が利用しています。

記憶に残るシーンや印象的な出来事などを古い写真とともに振り返ります。

宮古島市  
 宮古空港



1979年～1997年

青空に「花笠」が映える宮古空港旧ターミナルビル (写真提供: 宮古空港ターミナル)



わが町の魅力を伝える

「理想通貨」

環境に配慮した島づくりを目指し、2008年に「エコアイランド宮古島」を宣言した宮古島市は、海岸清掃やエコに関する教育活動などを行っています。これらの活動にさらに多くの市民が参加することを目的に誕生したのが「理想通貨」という地域クーポン。エコ活動の参加者に配布され、「理想通貨」の趣旨に賛同する協力店で割引等のサービスを受けることができます。地域をつなぐユニークな試みと、島の生き物や風土をモチーフにした紙幣デザインが評価され、2019年度グッドデザイン賞を受賞しました。



通貨の単位は、宮古島方言で「宮古」という意味の「みゃーく(M)」。



【問い合わせ】 宮古島市 エコアイランド推進課 TEL: 0980-73-0950



2020年

市鳥「サシバ」がモチーフの現在の宮古空港ターミナルビル (写真提供: 宮古空港ターミナル)



9月18日はしまくとぅばの日  
 広げよう!しまくとぅば県民運動

